

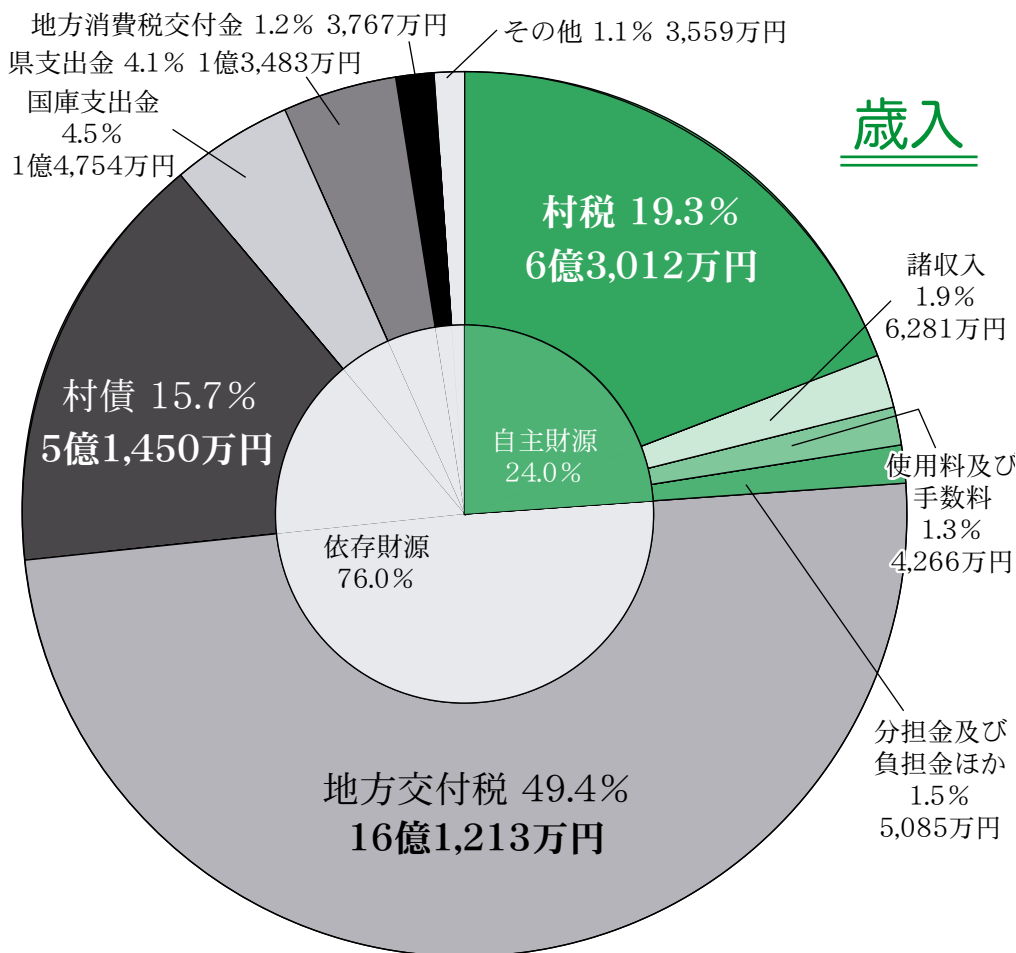


“新1年生”6年生にリボンをつけてもらいました。

3月定例会

- 25年度予算審議
一般会計予算 3 2 億 7 千万円 2
- 一般質問
6 名が登壇、村政を問う 8～
- 議会を傍聴して 14

安心して住み続けられる村づくりを 32億6,870万円（前年度対比2.2%減）



3月定例会

3月定例会は、3月5日から22日まで18日間の会期で開かれ、常任委員長、組合議員、議長、村長、監査委員からの諸報告の後、村長提出議案（補正予算6件、条例改正14件、新年度予算6件、村道認定などその他の議案5件、陳情1件、発議1件が上程され、慎重審議可決しました。一般質問は6名6件。

新年度 予算 Q&A

税収関係

Q 税収プラスの要因は。

A 全体では増額となっている。大きく伸びたのは個人住民税で、村内の大きな企業の業績を上向きと見たからだ。

Q 今後、税収が見込める大きな企業などに対してどんな支援をしていくか。

A インフラ整備、特に19号線一本の中の企業活動なので、早期の右岸道路の開設、また、住宅に関しても支援とみて良い。

ラスパイレース指数

Q 職員平均給与で平成13年と23年を比較すると11%程下がっている。この間17年に

は職員を10人以上の大幅削減をし、村としても努力してきたにもかかわらずラスパイレース指数が高く住民に関心を持たれているが今後の対応は。

A ラスパイレース指数の対処として初任給を下げる。また、職員については2号棒つ2年間で4号棒下げる。平均、5から6万円程度減となる。

リサイクルステーション

Q リサイクルステーション新設の場所と、村全体で何基設置となるか、また、これは地域住民のみ利用するものか。

A 場所は沓外外住宅、全21ヶ所、基本的に地域住民の利用となる。

Q あるステーションに大量の不燃物などが汚れたものが置かれ

特 別 会 計	予算額 (万円)	前年度比 (%)
村営水道事業特別会計	24,848	△25.2
国民健康保険事業特別会計	41,310	4.9
農業集落排水事業特別会計	13,909	12.0
公共下水道事業特別会計	11,232	△1.9
後期高齢者医療事業特別会計	5,952	1.1



歳出

予算の目玉

出産祝金

6万円→10万円
(200万円)

福祉医療給付金

対象年齢拡大高校生まで
(600万円)

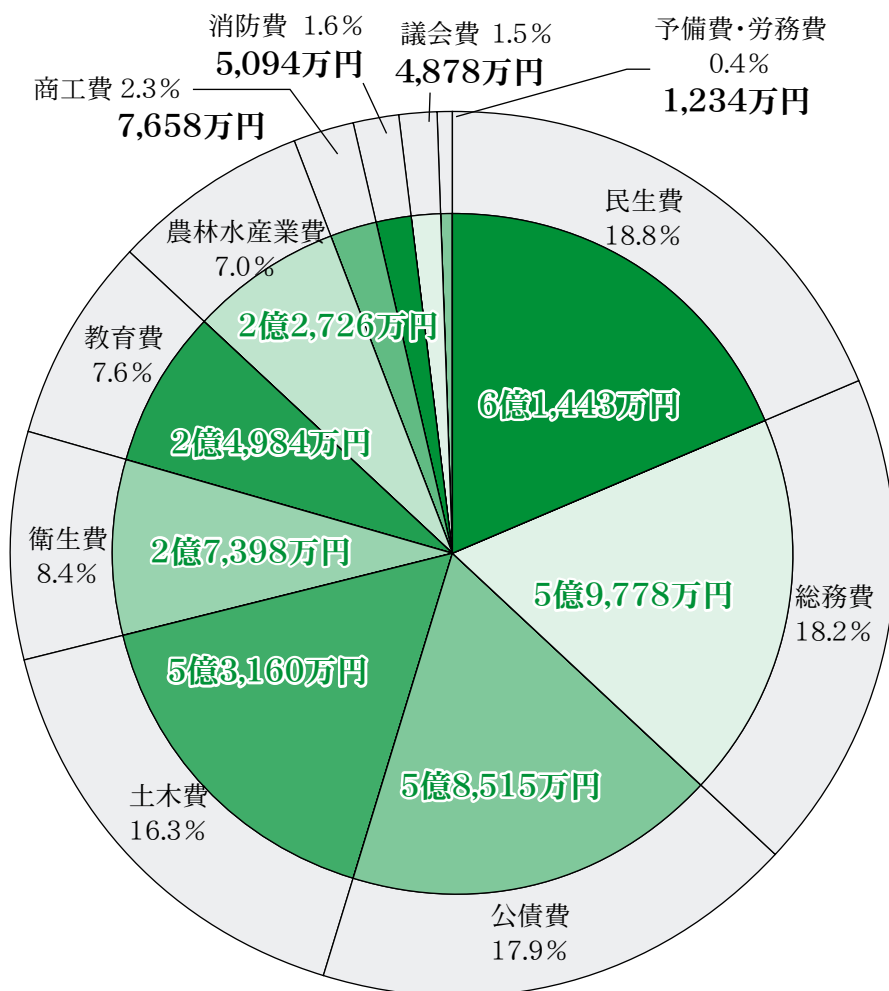
交通災害共済

全村民村費で加入
(190万円)

村道二つ岩線

新設工事

(2,100万円)



り込み客は増えている

Q 温泉館閉館は予想以上のダメージを受けた。阿寺溪谷の入

フォレスパ木曽関係

ながら進めてゆく。
業なのでJ Aと相談しながら進めてゆく。

A 管理・運営している。初めての事業なのでJ Aと相談しながら進めてゆく。

の支援は考えているか。

Q 和牛繁殖センター完成
センターが完成したが、畜産農家への支援は考えているか。

で協力してほしい。
ルール違反がある。地域の会合などに要請されれば説明に向くので協力してほしい。

A 電話相談などに出向いて指導することもあり、啓もうには努力しているが、まだ

動は。
分別に対する啓もう活動は。
住民のみ利用と徹底してほしい。また、ごみ分別に対する啓もう活動は。

ている。

営業努力はきちんとしていただきたいと考えている。

とはいがか。予算を組む立場では合理化、営業努力はきちんとしていただきたいと考えている。

A 会社の見積もりとおり
に委託料を出すのは当初予算の見積もりが甘いからと考えるが、毎年、50%前後の補正が発生するのは

したい。

Q 毎年、50%前後の補正が発生するのは当初予算の見積もりが甘いからと考えるが、毎年、50%前後の補正が発生するのは

A 村民に必要な施設。指定管理者との契約期間の今年度は、宿泊と観光の基地として2千500万円で委託したい。

急にする時期では。

Q 経営の抜本的な改革の意気込み、努力が形として現れていない。存続の可否、売却も含めて再検討を早急にする時期では。

A 野外施設の利用、オートキャンプの声もあるが、未だ踏み込めないでいる。

が、フォレスパの経営に結びついていないが。

一問☆一答

平成 24 年度

6千11万円を追加

補正予算質疑

一般会計総額 35億5,019万円

除雪対策

Q 中山歩道の除雪は、国交省が行うことになっているが、除雪が遅いため村で対応できないか。

A 状況を判断して国交省へ連絡している。村としても対策を講じている。

中学校体育館工事

Q 中学校体育館の天井耐震工事の時期とそれに合わせて音響対策は。

A 天井耐震工事は、夏休みに行う。音響対策は対応できない。

3 駅の暖房対策

Q 村内 3 駅の待合室に暖房がない。対策は。

A 村は、切符販売について委託している。暖房については JR と相談し、検討したい。

太陽光発電システム設置補助

Q 24 年度の設置件数は。

A これまでに、12 件申請があった。

フォレスパ木曾関係

Q フォレスパ木曾委託料 1 千 5 0 0 万円追加補正しているが。

A 黒字経営は難しい局面。改善計画による改革を進める。

組織の見直し

Q 保育園及び子育て支援センターを住民課から教育委員会へ所管替える理由は。

A 保育から中学まで子育ての一貫した支援体制をつくり、強い連携を結びたい。

Q 3 課から 5 課へ移行する主な理由は。

A 業務の過密状態の改善と、よりきめ

細かな住民サービスを提供するため。

総合計画

Q 総合計画のアンケート結果の一般公開は。

A ホームページで公開している。また、地区館や教育委員会でも確認できるよう考えたい。



大桑駅待合室

会計別補正状況

(単位：万円)

会 計	補 正 額	総 額	主な内容 (歳出)
一 般 会 計	6,011	355,019	広域負担金(無線デジタル) 2,709 フォレスパ木曾委託料 1,500 中学体育館天井改修 2,085
村営水道事業特別会計	△120	32,925	不要減額等
国民健康保険事業特別会計	985	43,173	一般被保険者療養給付費 1,000
農業集落排水事業特別会計	△70	12,419	不要減額等
公共下水道事業特別会計	27	11,777	光熱水費 25
後期高齢者医療事業特別会計	52	5,943	広域保険料負担金 78

こんなことが決まりました

役場組織の改編 3課→5課へ

条例改正

●課設置条例の

一部改正

●職員定数条例の

一部改正

事務・組織の見直し
による関係条文の一部
改正

○4月1日から

- ・総務課
- ・住民課
- ・福祉健康課
- ・産業振興課
- ・建設水道課

○これまでの編成

- ・総務課
- ・住民課
- ・経済建設課



※課の改編にあたり、
係の配置も変わります。
詳しくは広報4
月号の組織表をご覧ください。

●基本構想の策定に

関する条例の制定

基本構想について議

会の議決を図るため制

定

●出産祝金給付条例の

一部改正

出産祝金を6万円か

ら10万円に増額

●消防団員等公務災害

補償条例の一部改正

●福祉医療給付金条例

の一部改正

●地域活動支援センター

設置条例の一部改正

●国民健康保険条例の

一部改正

国の法律等の一部改

正に伴う関係条文の改

正

●道路の構造等の技術

的基準に関する条例

の制定

●準用河川管理施設等

の構造の技術的基準

に関する条例の制定

●村営住宅管理条例の

一部改正

●地域優良賃貸住宅管

理条例の一部改正

●布設工事監督者の配

置基準及び資格基準

並びに水道技術管理

者の資格基準に関する

条例の制定

●公共下水道の構造の

技術上の基準等に関

する条例の制定

地方分権改革一括法

の施行に伴う関係条例

の制定及び関係条文の

改正

契約変更

●平成24年度村道和田村

中央線改良工事変更

請負契約

湧水処理に伴う工程

の変更等により352

万円増額し、9千80

2万円とするもの。

●平成24年度村道伊奈

川一号線改良工事

(1工区) 変更請負契約

残土処理場の変更、

既設舗装の取り壊し量

の増等により450万

円増額し8千745万

円とするもの。

その他

●村道路線の変更

二つ岩線起点(小学

校上国道19号)終点(林

道樽山線)

●木曾広域圏公共サイ

ンの管理に関する事

務の事務委託に関す

る規約の制定

陳情

●T P P 交渉参加断固

阻止に関する陳情

陳情団体

木曾農業協同組合

代表理事組合長

小幡公良

結 果

全会一致

採択



発議

●生活保護基準の見直

しに関する意見書の

提出について

政府は、「生活扶助」

の基準額を段階的に引

き下げることに関議決

定した。生活保護基準

の引き下げは、生活保

護受給世帯だけでなく、

低所得者世帯もこれまで

で利用していた制度から

締め出されることに

つながり、国民生活を

脅かすことになる。

よって、国に対して

生活保護の支給基準の

引き下げ方針を見直す

よう求めるもの。

提出議員

瓜尾美佐子

賛成議員

古畑 昌夫

結 果

全会一致 採択

行政報告

○12市町村災害時相互 応援協定

昨年11月1日から3日にかけて全国治水砂防協会主催の紀伊半島の土石流災害被災地の視察に参加して参りましたが、その折りに全国レベルでの災害時の相互応援協定について、参加した市町村の間で話題となったところです。その後、12月7日に大阪府河南町武田町長より具体化に向けた提案があり、村としてもその必要を認め、参加することになりました。12市町村の参加により協定の締結がなされることになり、4月11日に大阪府において調印式が行われました。

▼参加市町村

宮城県蔵王町、秋田県東成瀬村、群馬県嬬恋村、新潟県出雲崎町、下伊那郡下條村、大桑村、岐阜県海津市、大阪府河南町、奈良県五條市、野迫川村、徳島県牟岐町、宮崎県高原町

○松くい虫被害の発生 について

アカマツのマツノザイセンチュウによる枯渴被害は昭和56年に山口村で発生し、南木曽町に拡大し留まっていたが、昨年10月村内阿寺において3本の被害が確認されました。

2月27日、森林林業



松くい虫除去

関係者により村森林病害虫防除連絡協議会を設置、早期発見早期防除の体制を整えました。被害木については焼蒸処理を行います。

また、昨年9月、南木曽町においてカシノナガキクイムシによるコナラ故損木が発見され、郡内に被害が広がってきました。

こうした状況から、松くい虫、カシノナガキクイムシ等の被害蔓延の防止と防除対策を図るため、町村、関係機関を構成員とする木曽地方森林病害虫対策協議会が3月7日設立されました。

総務社会常任委員会報告

◎2月14日開催

村が示した「事務・組織の見直し」について、担当者の提案説明を受け質疑を行った。

▼事務事業の見直しの件

保育園及び子育て支援センターを教育委員会の所管とし、子育ての一貫した体制をつくるために実施したい。

教育委員会への保育部門所管替えについては、幼少期からの継続した子育て支援につながるため理解できる。

▼職員定数改正の件

教育委員会事務局定数を5人から15人に改正。村長事務局定数を60人から55人に改正。

現行の総務課・住民課・経済建設課の3課を総務課・住民課・福祉健康課・産業振興課・建設水道課の5課に移行し効率化と管理指導体制の強化を図りたい。

職員定数増と5課体制の移行に関しては、提案理由が不明確のため、再度の提案説明を求め協議を継続。

◎2月21日開催

継続協議に関して委員会を開催。

職員定数について教育委員会事務局定数を15人、村長事務局職員を53人に改正。

組織の見直しについては、業務の多様化、複雑化に対応し、より住民のニーズに応え得る政策を遂行するために再編するものである。

今回の組織見直しは拙速すぎるのではないかと、25年度以降でも良いのではないかと、まだ検討の余地あり等の意見が出たが、2回の委員会の審議により5課体制について理解はできた。課が増えても横の繋がりが保てるよう検証し、よりよいサービスが提供できる体制づくりを期待する。

(報告者 鈴木 武)



福祉健康課（保健センター）

経済建設常任委員会報告

◎2月14日開催

▼(株)あてら役員と懇談

(株)あてらの役員を参考人として招き、フォレスパ木曽の経営の現状と今後のあり方について聞いた。

これには、(株)あてらの貴舟豊社長（村長）、半坂純孝副社長、上垣芳信総支配人、鈴木裕取締役、古谷賢一取締役（経済建設課長）及び監査役の半場弘宣氏と羽根田勉氏（総務課長）が出席した。

▼経営状況

フォレスパ木曽の経営状況については、前年に比べ宿泊客が500人、売り上げで約1千万円の減となっている。昨年5月からの温泉館の休館により、温泉館の損失分は約1千

700万円改善されたものの、あてら荘では売上の減少（1千200万円）と温泉館の休館による人件費の負担増などで営業損失は約1千800万円の増加となり、(株)あてら全体では前年同様の大幅赤字（約3千200万円）が見込まれる。主な要因として、温泉館の休館による影響とセレモニーセンターの開業等による宴席客の減少が考えられる。平成25年度の業績予測としては、温泉館の閉館の影響や外部要因などにより、3千500万円程度の営業損失が見込まれる。

▼今後の見通し

あてら荘は、宿泊施設として現在の二一ズに合っていないため、

売り上げを増やすには限界にきており、建て替えや改築が無理なら規模を縮小して存続するか、不採算部門の廃止などを検討する必要があるなどの意見とともに、行政や議会に対する率直な意見も出された。

委員会には委員外の議員も参加、清水副村長、担当係長らも出席した。

▼課の主要事業

委員会は、このあと平成25年度経済建設課の主要事業とともに大桑橋の整備について説明を受け、木曽建設事務所から示された3案の内容が明らかにされた。（報告者 古畑昌夫）

組合議会報告

木曽広域連合

議会報告

◎開催日 2月28日

◎場所

木曽文化公園

第1回定例議会には条例制定・一部改正、24年度補正予算、25年度一般会計及び特別会計予算などが上程され、すべて原案通り可決された。

新年度主要事業

- ・広域観光振興計画の事業推進
- ・知多半島地域との新たな交流検討
- ・新焼却炉建設に向けた取り組み
- ・消防・救急無線のデジタル化
- ・奨学金貸付制度の周知とともに、地域医療に係る広域的課題

の調査研究

・木曽寮のエレベーター改修

（報告者 瓜尾美佐子）

松塩筑木曽老人福祉施設組合議会2月定例会報告

2月15日に組合議会定例会が開かれた。議事内容は、条例改正1件、予算関連2件、監査委員の選任の計4件で、それぞれ慎重に審議した結果、可決・承認された。

条例改正は、長期継続契約を締結することのできる契約の種類について、塩尻市の条例制定にあわせ必要な改正を行うもの。

予算関連は、事業精算及び緊急対応経費等を反映させ、1千100万円を減ずる内容の

24年度一般会計補正予算（第2号）と、前年比1.6%増、総額46億5600万円となる25年度一般会計予算。

新予算の背景には、国の在宅介護への重点化に伴い、介護報酬は、1.2%の増額改定だが、介護職員処遇改善交付金が廃止され、実質的にはマイナス改定という厳しさがあがあるが、施設利用率向上に向けた取組の推進による雑入確保、施設定員・職員数・職員配置の見直し等による経費の削減を目指す。

監査委員の選任は、3名のうち1名の退任に伴うもので、松本市代表監査委員である大出俊次氏の選任を承認した。

（次回定例会11月予定）
（報告者 水野 進）

質 問

この問答は、質問議員が要約したものです。

水野 進 議員



今後の情勢変化を踏まえた 施政の基本的方針について

大桑村の明日に明かりを 灯す施策を推進



入園式

Q 施政にかかわる所信は。

A 今後10年間の財政運営指針と、長期展望に立つ村づくり計画を策定したい。

Q 今後の問題について。

A 人口減少、少子高齢・過疎化問題が、人口維持・福祉・防災・減災対策や右岸道路へのアクセス整備、自治組織構築支援、産業・

観光振興、遊休荒廃地・有害獣対策等の課題につながる。

Q 現在、財政力指数を除く財政指標は、改善方向にあるが、今後健全化努力を要する。ラスパイレス指数を含む人件費問題は、職員の処遇や勤勉意欲につながるのか、他の状況や勤務実態等を踏まえ適合理化を望む。あ

てら庄への経常赤字補填見込額は。フォレスパ全体の決算見込みで、約4千万円である。

Q 経営改善への道筋が見えない状況で、累積赤字が拡大する。早急に抜本的対応が必要と思う。年間赤字2千万円の松本市の保養施設は、民間活用その他、貸与や売却も視野に入れている。村長はどう考えているか。

A 株式会社あてらに27年度まで営業を委託している。改善の道筋が見えるよう求めるが、運営形態については検討する時期に来ており、民間活用も選択肢と思う。

Q 行政は、観光・産業等の全般的展望をもとに、あてら荘の位置づけや経営戦略を明示し、これに基づく経営を委ねるのが妥当と思う。今後施政の重視、重点は。

A 前述の課題や対策と重なるが、防災・減災対策に関連し、災害発生時に即応できる自治組織整備を時間をかけても支援したい。環境・社会資本整備にも注力。3色桃等各種花木の植栽による景観整備もしたい。

Q 村民により近づいた行政のために、①在宅介護のごみ始末という切実な問題。②

村民から村への各種問い合わせ要望（聞きたい、頼みたい、相談したい等）③村政への提言受付制度。④村から村民への情報発信の適切化等の対応策の実現を願う。最後に副村長の所信は。

A 村長の補佐、職員 の指揮監督が仕事。施策化に当たっては、一貫性、妥当性を確保。組織力を活用し、財政や諸計画との整合を図るとともに、多様な意見やニーズを的確に伝え、村長の判断を仰ぐよう尽力したい。



明日を語る集い



Q&A 村政を問う

鈴木 武 議員

般

避難所表示板の設置を

防災計画見直し後考えたい

Q 25年度導入予定の防災エリアメール

配信ソフトは、携帯電話でも情報を得られるものか。また、最寄りの避難場所を知らない住民が見える。避難場所の再検討とともに避難場所表示板の早急な設置を要望する。AEDについても、今回は初の屋外設置をするが、既存のAEDも順次、屋外設置にするのか。

A 導入予定システムは、メールアドレス登録不要で、村内の携帯電話所有者に情報伝達できるもの。避難場所表示板に関しては防災計画見直し後、検討したい。AEDの屋外設置については、検

証した上で考えたい。

Q 25年度、交通災害共済掛金無料化を全村民対象にする。ここに至った経緯は。

A 15町村で運営している団体であるが、

23年度決算時点で剰余金が3億8千万円となり、一般掛金を300円に減額したため全村民分の掛金を村負担とした。

Q 24年度まで国庫補助事業であつたかわちゃんバスが25年度から自主運行となる。病院線は利用者も多いが、村内循環線は利用者が増加していない。

24年度まで国庫補助事業であつたかわちゃんバスが25年度から自主運行となる。病院線は利用者も多いが、村内循環線は利用者が増加していない。



くわっこ工房の表示板

乗合タクシーエリアの見直しとともに、路線の見直しや観光客への利用方法を提案する。

A 病院線は一日20人前後の利用者はあるが、村内循環バスは、

横ばいか下降気味である。通園通学バスとの併用のため時間配分が困難であるが、今後利用者増加に向け検討を重ねたい。

フォレスパ木曾の委託料は当初予算で運営可能か

経費削減と営業努力で対応

Q 25年度もフォレスパ木曾の委託料は、

則見直しによる経費削減と営業努力を求め委託料を算定した。

今年同様の2千500万円である。毎年不足し24年度も1千400万円の補正を組み、総額3千900万円となった。新役員体制で承認済み金額か。また、算定根拠は。

A 25年度経営計画では3千600万円を計上したが、4月1

日から実施する就業規

Q 歳出の中で土木費だけが突出して減額となったが、どのような経過によるのか。

A 26年度は下在阿寺線を予定しているが、25年度はその準備段階の年となったためである。

質

問

この問答は、質問議員が要約したものです。

岩佐孝和 議員



安心安全な村への把握は

順次、意を持って管理している



伊奈川へのトンネル

Q 笹子トンネル天井板落下事故以来「インフラ老朽化」という言葉を見聞きする。村はこのことをどう把握し考えているか。

A 国も「造る」という考えから、保守・保全にも目を向けてきた。村では施設について

ても年度、老朽化について台帳等で管理には目を配っている。

Q 国はトンネルの点検要領を作成し、予算も補正でつけた。村内の数と現状は。

A 村内には5ヶ所ありほとんど使用されず、現状では橋場か

ら伊奈川へのトンネルが管理すべきもの。構造的には問題ないが、幅員等は検討が必要と考えている。

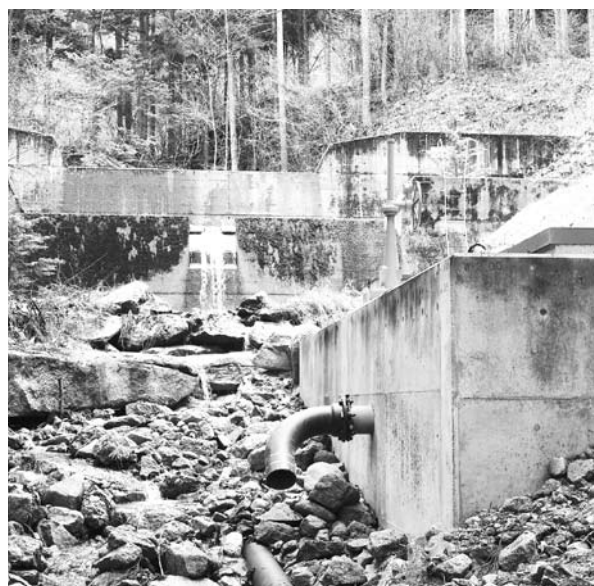
Q 上水道、特に野尻地区の整備が遅れている。水源、導水管の改修計画は。

A 野尻は水源が5か所あるが、第1から第3で水量は確保できる。第1は24年度で改修が終わり、他はまだ石綿管が使われており、今年度、布設替えを計画している。

Q 導水管関連はこれで村内全て終わるのか。

A 野尻は終了と考えるが、東部簡水に1ヶ所不安定なところがあり、他の水源から導水管増設を計画している。

Q 浄水場の野尻施設は古い。建物等の強度は。



野尻水源

A 昭和63年建設のもので建物の強度は大丈夫だが、中の施設は適正な管理をする中で、順次更新をしていきたい。

Q ろ過方法も東部簡水以外は古い方式だと思うが、そのろ過結果は変わらぬ数値が出ていると考えて良いか。

A 浄水場は5か所あるが、それぞれの方法でろ過し、いろ

ろと方策をとりながら適正な水を供給できると考えている。

Q 放射性セシウムの数値になんら問題はないのか。

A 国・県・村でそれぞれ実施している。村は役場、学校、保育園で毎月測定し、数値は0.1マイクロシーベルトで、平常自然界で測定される範囲である。



Q&A 村政を問う

般

沼 友行 議員

点から線、線から面への 観光施策は

観光ルートマップとして
形にしてゆく

Q

村は、点から線へ、線から面へと観光に力を入れると言ってきたが、温泉館を閉館してしまつてからは、あてら荘へ来るお客様が非常に少なくなつた。対応策は。

A

観光をかんこうする委員会のアイデアにもとづき行政として、できることから行う。観光資源、スポットを線でつなげてモデ

Q

ルコースを提示してもらい、観光ルートマップとして形にしてゆく。今年度、須原宿のルートマップを作成した。案内看板を順次取り付けている。村内の観光ガイド10名が活動に向けて準備をしている。

A

あてら荘が観光の起点となつて観光に力を入れていけるのか。

A

フォレスパを観光の起点とは考えていない。

Q

あてら荘が赤字で営業利益が出なくなつてしまつた現在、たくさんの方の委託料を払つて続ける意味があるのか。

A

村内唯一の多くを集客できる宿泊施設であるとともに、宴会もできる施設であり、今の施設を維持し



須原宿

ていきたい。

Q

夕方5時を過ぎたら入浴できない温泉なら、村民のためになつていないのではないかと。また、温泉を改修する計画はないか。

A

夕方5時以降の入浴も今は利用できるように対応している。温泉の改修は考えていない。

Q

観光の軸足を企業誘致にしていこうか。

A

企業誘致は難しい。村内に今ある企業をいかにして引き留めるかが大事である。企業誘致をあきらめたわけではないが、今の時期としては難しい。



和村工業団地

質

問

この問答は、質問議員が要約したものです。

瓜尾美佐子 議員



プレミアム商品券は
多面的に利用できる工夫を

多くの住民が恩恵を
受けられるよう工夫したい

Q 生活保護費の基準額引き下げによる住民税の非課税限度額への影響と、現在の非課税対象者は何名か。

A 対象者は1600人。26年からの影響については、税制度の改正の中で決めるとされているので注視していきたい。

Q 非課税の限度額が下がれば、住民税免除の低所得者が課税

されることになり、連動している生活支援制度が受けられないなど影響があるのではないかと。

A 厚労省は38制度に影響が及ぶとしていますが、村にはそのうちの3分の1くらいの影響がある。保育料の減免、介護保険料の階層区分などに影響、税の減免には全て影響があると思われる。

Q 村に判断が委ねられる制度は。

A 保育料の階層区分、インフルエンザの公費負担、就学援助費などがある。

意見 できるだけ制度の影響が出ないような対応を求める。

Q この冬は厳しい寒さと灯油価格の高騰による支援策として、木曽町や下諏訪町では灯油だけでなく、地元



保育園

A の加盟店ならどこでも利用できる福祉商品券や生活応援商品券の発行で低所得者の暮らしを応援している。村は、新年度もプレミアム商品券の助成をするが、もっと多面的に利用できるような工夫ができないか。

民が恩恵を受けられるような工夫はしていきたい。

意見 村が生活弱者への支援として、商品券を一定量買い取って配布するなど検討を求める。くらし応援と地元業者への支援の両面が生きるような取り組みの工夫を求めたい。



入学式



Q&A 村政を問う

古畑 昌夫 議員

般

住宅環境の整備、 空き家対策の推進を

空き家・地震対策など検討

Q 住宅リフォーム助成の利用状況はどうか。

A 昨年度からで38件、652万円。

1件当たり平均17万円となっている。

Q とりあえず3年間となっていて、継続する考えはあるか。

A 利用者が多くて、予算上厳しくて止めたところもあると聞いている。大桑村では、この程度なら続けることができる。

Q 今年度の下水道の引き込みの実績はどうか。

A 民間の住宅やアパート、村営住宅の建設で24件となっている。最近では、平均20

件程度になっている。

Q 空き家の現状、空き家対策はどうか。

A 平成21年度に調査を行い、所有者がわかっている空き家が74件あり、賃貸ないし売却の希望が12件あった。空き家情報バンクを23年度に立ち上げ、



須原団地

家屋6件、土地は12件の登録があり、うち家屋2件と土地7件の契約があった。

Q 空き家対策として国の補助事業で活用できるものがあるか。

A 村の空き家対策として利用できると思うのは、国交省の「空き家再生等推進事業」で、体験宿泊施設や資料館としたり、危険な空き家を除去して公園等に活用する事業などもある。

Q 空き家は今後も増える可能性があり、火災や不審者の侵入などを心配する声もあり、景観上でも積極的な対策が必要ではないか。

A 村政懇談会でも空き家を利用した定住を求める意見があり、今後については検討していきたい。

Q 南海トラフなど地震対策は。

A 以前は東海地震の想定は震度5弱であったが、南海トラフが連動した場合には震度5強が想定されており、それに沿った防災



空き家バンク登録住宅

Q 計画を検討している。住宅の耐震化とともに家具の転倒防止の啓もうや支援が必要ではないか。

A これまでも広報で知らせたことはあるが、今後も普及する必要がある。

Q 自然エネルギーの活用では、これまでの経験も活かし薪ストーブなどへの助成も必要ではないか。

A ペレットストーブは、今年2件の申請があった。今後検討する余地がある。

議会を傍聴して

3月定例会の二日目、細田光一さん（野尻）が傍聴に訪れました。初めての傍聴ということもあり、感想をお聞きました。

三月、私は初めて村議会を傍聴しました。午前中の議案は、主に国及び県の法改正に伴う村条例の制定（変更）でしたが、法的表現がなじみにくく理解しにくいというのが第一印象でした。法治国家であるので当然のことではありますが、できる限り誰にでもわかるように、弾力的且つ普段着的な議会であらばと思います。（例えば、お互いの顔が見えるよう席を円形にする等）午後は、総額約42億の新年度予算の提案説明がありました。

限りある予算の中から、それぞれの事業にいかに関分するか、その予算案が出来上がるまでには相当のエネルギーを要するものと思われると思います。当日頂いた資料（予算説明資料）には、主な項目の前年度比が表示されており見やすかったです。ただ、そこに至るまでの補足説明（理由）がもう少しあればと感じました。また、財政の健全化も大変重要な事柄だと思えます。毎年

度、借入金はずつ圧縮されてきてはいますが、短期間では処理できない課題なので、中・長期におよぶ計画のもと、年々確実に改善されていくことが大切だと思います。今回の傍聴は、私一人だけでしたが、6月・9月・12月にも議会が開かれますので、村の大切な意志決定の場へ多くの方が参加され、わが村大桑を村民一人ひとりがより一層身近に感じられるようになればと思います。



議会風景

表彰

平成24年度の第64回全国町村議会議長会において、大桑村議会が全国表彰を受けた。

この表彰は、政策づくりと監視機能を十分発揮していること、住民に開かれた議会であることなどが評価されたもので、全国で33議会が表彰された。

この初受賞を期に、今後ますます議会の活性化に向け、また、開かれた身近な議会を目指し鋭意努力して参ります。



編集後記

今年の冬は例年になく寒く、多くの残雪が村内にみられました。が、ようやく春の訪れとなりました。

3月議会は、補正・条例改正・新年度予算等に審議を重ね承認されました。観光対策には、問題が残りますが、村民一体となり乗り越えなければなりません。

須原地区には、村営や民営のアパートができ、今後の村づくりに期待されます。早く地元になじみ、地域の活動にご協力いただきましたと思います。

（木戸）

委員長 横平 幸男
副委員長 瓜尾美佐子
委員 木戸 勘一
大前今朝男
岩佐 孝和